

学校名 肝付町立岸良学園

項 目	活動内容等	
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	<p>校区内にある豊かな自然を生かした緑化活動や校区の景観保全事業をはじめ環境教育を推進している。なかでもウミガメ保護活動は旧岸良小学校時代から26年の歴史を誇る活動で、PTAや関係機関と連携した特色ある活動を展開している。教育活動に特色ある教科「ウミガメ科」を開設し、かごしま水族館と連携協定を結んだ活動を実施している。</p>	
2 受賞候補校等の活動状況等 (1) 活動の動機・頻度 ① 活動を始めた動機及び開始年月	<p>校区内にある岸良海岸はウミガメが上陸・産卵する美しい砂浜で、子供にその素晴らしさを実感してもらうためPTAが中心となりウミガメの産卵観察会を平成9年に始めた。その後、平成11年から卵の保護・ふ化・放流体験という一連の活動を取り入れ、以来20年以上続いている。</p> <p>例年6月から砂浜での巡回活動を始め、上陸・産卵の確認後、採卵を行い学校の「ウミガメハウス」に埋め戻し、ウミガメがふ化するまでの間、継続して観察を行い、放流を行っている。</p>	
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	ア 特色ある教科 「ウミガメ科」	イ 景観保全事業
③ 月間又は年間活動回数	A ウミガメ巡回 2～4回 B 採卵活動 1回 C 観察記録 ふ化までの間 D ウミガメ講演会 1回 E ウミガメ科 通年 調べ学習等 20時間 F 放流会 1～2回 G 海岸清掃 2回 H 岸良フェスタでの研究発表 1回	a もち米栽培による休耕田の活用 (田植え, 除草, 稲刈り, 脱穀など) 5～6回(4月～8月) b 地域住民との花植え交流 1回(11月) c 学校敷地内の樹木の樹名板の制作・設置(10月)

項 目	活動内容等	
④ 活動のエリア	岸良海岸	岸良地域
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	A 30人 2時間	a 20人 1～2時間
⑥ 活動1回当たりの平均時間	B 35人 2時間	b 40人 1時間
	C 19人 5分	c 30人 2時間
	D 42人 2時間	
	E 19人 1～2時間	
	F 27人 40分	
	G 40人 2時間	
⑦ 収集ごみの処分	G 海岸清掃において漂着ごみを「燃やせるゴミ」、 「燃やせないゴミ(缶・瓶)」,「プラスチックゴミ」 に分別収集後、業者による回収	
(2) 活動の独創性 活動の特徴	ウミガメの保護活動を通して命や郷土の自然環境を大事にする心情を育てている。 PTAや地域の支援のもと、児童生徒を中心に取り組んでいる。	校区や学校の環境緑化に取り組み、郷土愛・愛校心を育てている。 また、地域住民との交流は地域の活性化、学校の教育活動理解・啓発につながっている。
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献	海岸清掃を地域住民と一緒にいき、参加者の自然保護・環境美化に対する意識を高めている。	校内の花植えを通して、地域の風景に季節感を与え、美化意識を高めている。
② 地域住民との協力活動	ウミガメ上陸の情報提供、巡回・採卵活動、講演会、放流会、海岸清掃	除草、花植え
③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	ウミガメの産卵シーズンに合わせ、上陸情報の提供、巡回活動へも参加するなど協力意識が高く、ふ化時期になると、ウミガメハウスの様子を見に来るなど関心を寄せている。 景観保全活動は地域団体の協力のもと活動できている。地域への還元として、もち米販売や花苗を提供しており、楽しみにしている住民も多い。 令和3年度から、かごしま水族館と連携協定を結んでおり、毎年4月に地域住民を交えた講演会・学習会を行っており、地域にとっても貴重な学習の機会となっている。	

項 目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	ウミガメ科の一連の活動は生物保護という側面だけでなく、郷土の自然保護意識を高める活動でもあり、身近なプラスチックゴミの問題を肌で感じる事ができる。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	海岸清掃活動を通して、環境問題やゴミ問題に目を向ける機会となり、そのことをテーマに作文を書いたり、自由研究のテーマにしたりするなど環境保護に対する関心の高まりがあった。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林教室（防災林の役割、森の役割を学ぶ） ○ 椎茸駒打ち体験 ○ 間伐材を使った木工製作
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか (受賞年月日と表彰機関名)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第72回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい 野生生物保護功労者表彰 「文部科学大臣賞」H30年5月13日 (環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟) ○ 令和2年度全日本学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部 「特選(文部科学大臣賞)」R3年5月30日 (公益社団法人国土緑化推進機構) ○ 令和5年度鹿児島県学校環境緑化コンクール 「優秀賞」R5年8月22日 ○ 令和5年度全日本学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部 「準特選」R6年5月26日
(6) 校内外活動のための時間の作り方	
3 その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウミガメ科、総合的な学習の時間、生活科(前期)、学級活動、創意、業間の時間、清掃時間 <p>昨年度は、「ウミガメ保護ハンドブック」を参考に、かごしま水族館をはじめとした関係機関と連携しながら、かごしま水族館主催「ウミガメサミット」で研究の成果を発表し、自分たちの活動を発信することができた。</p> <p>今年度は、6月に採卵し、12月に宮崎県で開催される第35回日本ウミガメ会議にて、研究結果を発表する予定である。</p> <p>また、奄美海洋生物研究会会長と連携し、正しいウミガメ保護の在り方について助言をいただきながら研究を続けていく。</p>

1 特色ある教科「ウミガメ科」の活動

<p><採卵活動></p> <p>採卵した卵をウミガメハウスに埋め戻す前に卵の個数、重さ、大きさなどを計測し、埋め戻している。</p> <p>また、砂浜での採卵時の穴の深さや直径を計測し、できるだけ砂浜に埋まっていた状態になるよう卵を順番に埋め戻すようにしている。</p> <p>地中温度計などを使用し、気温・地中温度や降水量などの詳細な記録測定も行っている。</p>	 <p>卵の大きさ・重さ計測</p>
<p><ウミガメ学習会></p> <p>かごしま水族館学芸員を講師にお招きし、ウミガメの生態、卵がふ化するまでの仕組み、昨年度の観察記録に基づくふ化率向上について学習した。今年度の調査方法についても助言をいただき、自分たちの観察活動の参考としている。</p> <p>保護者・地域住民へも案内し、ウミガメ保護活動の啓発にもつながっている。</p>	 <p>生徒による発表</p>
<p><調べ学習></p> <p>学年に応じたテーマを設定し、調べ学習を行っている。</p> <p>6～9年生は調べた内容を発信する取組もあり、学習発表会やかごしま水族館で学習成果を発表した。</p> <p>ウミガメに関する様々な活動について、まとめ学習をすることを通して、生物保護・自然保護の意識が高まり郷土愛の醸成にもつながっている。</p>	 <p>かごしま水族館での発表</p>
<p><海岸清掃></p> <p>年2回（4月・10月）実施。約1.5キロある海岸線の中で、特に駐車場近くの一帯を保護者・地域住民と一緒にやっている。</p> <p>分別回収したゴミは関係機関を通じて業者回収されるが、大型の漂着物、近隣の外国からのゴミもあり、ゴミ問題を肌で感じる事ができる活動になっている。</p> <p>小さな活動だが、地域と一緒に取り組むことで地域との一体感を生んでいる。</p>	 <p>岸良海岸清掃の様子</p>

2 景観保全事業の活動

<p><休耕田の活用></p> <p>令和5年度は地域の休耕田を活用し、もち米栽培を実施している。田植え・除草作業・稲刈り・脱穀の作業を通して、職業観の醸成だけでなく、稲の成長や田んぼが作り出す地域の景観に関心を寄せる機会となっている。</p> <p>また、食に関する教育の一環として、もちつきも実施し、季節感を肌で感じる機会となっている。</p>	
<p>< グリーンカーテン設置 ></p> <p>給食時間に使用するランチルーム南側の窓に設置，学校の緑化とランチルームの遮熱効果が期待できる。</p> <p>生徒が植えたニガウリの成長が確認しやすく，収穫する喜びも体験できる。</p>	
<p><森林教室></p> <p>令和5年度は森林学習と題して，森林の果たす役割，木材の利活用方法について学習した。</p> <p>また，林業の作業の様子についての講話を聞きながら，林業について理解を深め，職業観の醸成もできた。</p>	